

# 本のひろば

出会い・本・人

オリヴァー・オドノヴァン教授との

出会い 加山真路

本・批評と紹介

L.D.ピエルマ 編/吉田 隆 訳

『ハイデルベルク信仰問答』入門

出村 彰

加藤常昭 著

信仰への道 古屋治雄

雨宮栄一 著

ドイツ教会闘争の史的背景 河島幸夫

マルゲリート・ハーマー 著/村岡崇光 訳

折られた花 池田恵理子

大頭真一 著

聖書は物語る 正木牧人

高橋洋代 著

『星の王子さま』からの

クリスマス・メッセージ

斎藤惇夫

D.K.マッキム 著/出村 彰 訳

魂の養いと思案のために 吉田 隆

佐藤全弘、藤井 茂 著

新渡戸稲造事典 湊 晶子

松本敏之 著

マタイ福音書を読もう1 鈴木伶子

松居 友 著

わたしの絵本体験 菊地知子

岡山慶子 編著

やさしさの暴走 朝日研一朗

小川修パウロ書簡講義録刊行会 編

小川修パウロ書簡講義録3

ローマ書講義 III 菅原 力

近刊情報

書店案内

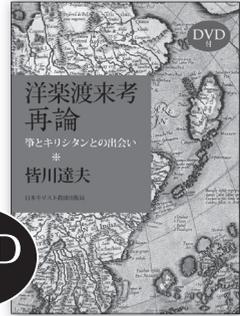


3 MARCH  
2014

# 洋楽渡来考 再論

皆川達夫  
箏とキリシタンとの出会い

DVD  
付



中世・ルネサンス音楽史の権威が、《箏曲「六段」はキリシタン時代に伝来したグレゴリオ聖歌「クレド」の旋律を元に作られた》という仮説に挑戦。曲の構造や様々な状況証拠の検討、さらには同時演奏の実践から、キリシタン期の音楽の姿を再現する。

◆A5判 上製函入り・160頁・本体6,400円＋税

- I | マドリード版『サカラメンタ提要』
- II | キリシタン期の日本における「連袴」をめぐる諸問題
- III | 箏曲《六段》の成立に関する一試論  
日本伝統音楽とキリシタン音楽との出会い



DVD  
III部に対応

「六段」と「クレド」を同時演奏した映像を収録  
指揮：皆川達夫／箏：野坂操壽／合唱：中世音楽合唱団

品切れの前著を限定重版!



洋楽渡来考  
キリシタン音楽の  
栄光と挫折  
皆川達夫

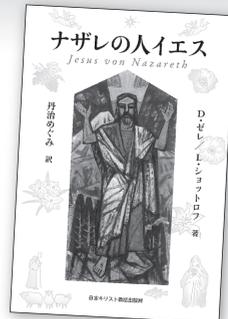
A5判 上製函入り・642頁  
本体18,000円＋税

## ナザレの人イエス

ドロテー・ゼレ／ルイーゼ・ショットロフ  
丹治めぐみ 訳

2人の女性神学者が、現代的視点からイエスを語り直す。聖書学的知識に裏付けられながらも平易な文章、詩や絵画は、読者をイエスの黙想へと誘う。

◆四六判 並製・210頁・本体2,200円＋税





## 出会い・本・人

### オリヴァー・オドノヴァン教授との出会い——加山真路

二〇一一年一月、あるシンポジウムが英国で開かれた。オリヴァー・オドノヴァンという神学者（専門は政治神学、キリスト教倫理）の退官を記念するもので、四日間にわたり、生命倫理から正戦論にいたる幅広いテーマが論じられた。教授に博士論文（アウグスティヌス平和論の形成）を指導してもらった縁で私も招かれたのだが、与えられたテーマは「説教の倫理的可能性」。牧会者としても説教者としても未熟な私には荷が重かった。じつは、教授自身が英国国教会の司祭であり、また説教の名手だということもあって、この機会に極東の現役牧会者に声をかけ、アウグスティヌスが説教の中で政治社会との接点をどのように紡いでいたか、そこに光を当てさせようと考えたようだ。（シンポジウムの討議を発展させた退官記念論文集が今年 Erdmans 社から発行される予定）。

発題の出来はさておき、自分の来し方を振り返る良い機会となった。しみじみと思ったのは、私の信仰、そして牧師への道が、優れたキリスト者の学者を通して備えられたものだけということである。まだキリスト教に激しく反発していた頃、大学で長（武田）清子先生に出会い、『土着と背教』『人間観の相克』などの著書を通してキリスト教思想史に目覚めた。大学院では、『政治哲学の復権』『政治理論のパラダイム転換』などで知られる故・藤原保信先生から西洋政治思想史の手ほどきを受けるとともに、アウグスティヌス研究への道を開いてもらった。

そんな私が牧師になろうと思いつめたのは、オドノヴァン教授

と過ごした四年間のことであった。主著 *Resurrection and Moral Order* (1986), *The Desire of the Nations* (1996), *The Ways of Judgment* (2008) はいずれも邦訳されていないが、キリストの福音＝神の国の視点から、この世（地の国）の限界と意義をリアルに分析する手際は、教授自身がアウグスティヌスから受け継いだものにほかならない。どの著作も、引用は古代から現代にいたるまで縦横無尽、テーマも正戦論など古典的なものから中絶や同性愛といった現代的なものまで幅広い。文学や芸術にも造詣が深く、精緻な論理をていねいに積み重ねるその政治神学は難解であり、誤解もされやすい。しかし、神の国という超越的な視座からこの世を相対化し、複雑に絡まりあった糸をていねいによりわけ、問題の所在を見極めるオドノヴァン流の強靱な知性は、全体主義か民主主義か、資本主義か社会主義か、戦争か平和かといった二分法が通用しない現代の思想状況において、ますます必要とされるであろう。

牧会か研究か。私は今、教授とは逆側に軸足を置いている。学問の世界ではなく教会を足場とし、日々牧会伝道に動しみながら、それでも教授と同じようにキリスト教と政治・社会との接点を見つめ続けていきたいと願っている。ちょうどアウグスティヌスが、ヒッポという町の牧会者としてローマ末期を生き、聖書を通して思索し、説教を通して発信し続けたように。

（かやま・しんじ＝日本基督教団六角橋教会牧師）

四五〇周年記念出版  
L・D・ビエルマ編  
吉田 隆訳

# 『ハイデルベルク信仰問答』入門 資料・歴史・神学



出村 彰

今年（二〇一三年）は、「ハイデルベルク信仰問答」制定から四五〇年に当たるので、世界各地でさまざまな記念の企画や出版が次々といでいるのか。日本だけ考えても、少なくとも長老改革派の伝統を継承する諸教会では、信仰の手引き、ひいては受洗準備教育等で最も広く用いられているのが、この信仰問答であることに疑問なからう。その意味では、今回の吉田隆牧師による訳書は、まことに時宜にかなっていることは間違いない。

吉田師は既に一九九七年に、「ハイデルベルク信仰問答」の問いと答えの新訳を出版、続いて二〇〇五年には、本問答の特徴の一つである、膨大な「証拠聖句」も含めた訳を刊行しており、今回の訳書によって、極言すれば、「ハイデルベルク信仰問答」について知るべきことのほとんどすべてを、邦文で手に出来ることになった。慶賀の至りである。原編著者のビエルマ博士は、改革派神学の牙城とも言べきアメリカのカルヴァイン神学校で、組織神学を講ずる代表的な現役の研究者であり、かねて吉田牧師とも親交があると聞くので、本書は最適の日本語

訳者を得たことにならう。

全体は二部に分かれる。第一部「歴史研究」には、本信仰問答が制定されたドイツの南西部ライン・プファルツ地域の信条の変遷（カトリック、ルター派、改革派）の略述、本問答の目的と執筆者、さらにその原資料と神学、現存する古い諸版、最後に主要な研究文献の紹介が含まれる。第二部では、本問答の主要な執筆者と想定されるツァハリアス・ウルジヌスの大小二つの信仰問答が紹介されるが、「大問答」は我が国では初訳である。加えて、評者を驚かせたのは精密な注で、全体三〇〇頁余の約四分の一が、詳細な注記である。あらゆる意味で、この訳書は「ハイデルベルク信仰問答百科全書」と呼んで何の差し支えもないだろう。

評者自身は、石丸新氏ら先師にも導かれつつ、かねて「ハイデルベルク信仰問答」の邦訳の歴史に関心を懐き続けてきた。本問答の通奏低音とも呼ぶべき、第一問の日本語訳の変遷を見比べるだけでも興味は尽きない。明治初年のE・D・ミラー（『聖教信徒問答』一八九一年改訂版）から始まって、A・D・

グリングの『鄙語海徳山問答』、同『基督教海徳山問答』、戦後の竹森満佐一、登家勝也、高崎毅志、吉田隆、田部郁彦等々、文字通り枚挙に暇がない。ドイツ語原文では僅か一〇語の第一問の訳文にして既にそうである。短だけに、日本語訳が難しくなる。ついでながら評者自身は、かねがね「生きている間も死に臨んでも、あなたの唯一の慰めは何ですか」と訳してみたりにしている。

この度、本訳書を手にして初めて、本問答の原資料として、ウルジヌスの大・小二つの教理問答に触れることができた。訳者はわざわざラテン原文に戻って訳出した由であるが、その第一問にはこうある。「生きている時と同じように死ぬ時にもあなたの心を支える、あなたの慰めは何ですか」（小問答）。「生と死において、あなたはどのような確かな慰めを持っていますか」（大問答）。評者自身がそれなりの年齢に達し、しかも、忘れようにも忘れられないあの三・一に直面し、「死ぬ時にも」であろうが、「死において」であろうが、決して他人事では済まされない思いひとしおである。

評者が中でも教えられるところが多かったのは、編者ビエルマ教授自身が執筆した（注を含めると）五〇頁にも及ぶ第三章「『ハイデルベルク信仰問答』の資料と神学」である。結論的に

言えば、本問答の背後には、既に半世紀にも及ぶ福音主義教会改革の努力が、ツヴィングリ、プリンガー、カルヴァン、加えて（ルター派の）メランヒトンの弟子たちの間に共通の神学的土台としてあり、その上に驚くべきコンセンサスが創出されたことになる（一一七頁）。以後、四五〇年に及ぶ汎用性も首肯に値しよう。それは「最善の宗教改革的エキュメニズム」（一一三頁）だったからである。

なお、評者自身としては、全部で一二九の問答の内、少なくとも三五はエムデン（後にロンドン亡命者教会）の指導者ア・ラスコに遡るといふ、少し古くはなったが研究者バード・トンブソンが肯定的に引挙されている点（一一一頁）に注目した。ただし、評者自身がア・ラスコ原典に当たったかぎりでは、少なくとも第一問に相当する文言は見いだされなかった。枝葉末節を別として、翻訳の労苦に感謝し、訳文の正確さに贅辞を呈して、「紹介と評」に替えたい。それにしても、最も適切な謝意の表明は、ともあれ「ハイデルベルク信仰問答」そのものを手に取ることに違いない。

（でむら・あきら＝東北学院大学名誉教授）  
（A5判・三三〇頁・定価三三六〇円（税込）・教文館）

福音の真理を知る喜びを伝える  
加藤常昭著

### 信仰への道 使徒信条・十戒・主の祈り



古屋治雄

本書は、『加藤常昭信仰講話』全七巻に収められている、『使徒信条・十戒・主の祈り』上下二巻(教文館、二〇〇〇年)が、『信仰への道』との新たな書名のもとに一巻にまとめられて刊行されたものである。本書はさかのぼると、放送伝道に取り組んでいる日本FEBICが、多数の信仰者のみならず求道者たちの声を聞き、またそこから「きちんとキリスト者の信仰の基本を語ってもらいたい」との願いを受けて、著者が一九八四年から「聖書をあなたに」という番組の中で説き明かしたもので、当初は録音テープ、CDで頒布されたものである。

この度の版にはこれまでの導入に、さらに「はじめに」が加えられている。これまでの牧師として、そして神学教師としての様々な出会いと経験(特にルードルフ・ボーレン先生との出会いと経験)を著者は語りながら、三要文を「ところで学ぶところの言葉」と表し、また「ここからここへへの言葉」と語っている。これまでに信仰問答や三要文をこのように表現する言い方は、教会の伝統の中で極めて希なことであろう。著者があえてこのように三要文を受けとめていることには、ルードル

フ・ボーレンとの出会いが大きく影響していると思われる。そのような中で著者は述べている。

ボーレン先生は、信仰の言葉を暗記することは、まさに自分自身以外のところから来る、「耐えられる力」をもたらす神の力に生かされるということであったのです。(中略)

本書で私が説き進める言葉もまた、この暗記の勧めであり、暗記する言葉の豊かさを少しでもここに刻もうとする言葉です。(「ここからここへへの言葉」です。深く悲しみ、傷つき、病んだ、スイスの神学者、牧師であったボーレン先生が、それにまさる深い慰めを得、救いの確信を得、こころ癒やされた、こころの言葉がここにあります。じっくり読み始めてください(一四―一五頁)。

本書を三要文の「解説書」と受けとめることは正しく読むことにならないだろう。著者は始めから「三つの文章を覚えよう」とも呼びかけ、「暗記しながら学ぶ」ことを推奨している。

この姿勢は、三要文の言葉そのものへの信頼から生まれている姿勢であり、さらにそれは聖書そのものを信頼している姿勢と重なっている。

すでに教会生活をしている信仰者にとって、このキリスト教信仰の根幹をなす三要文が信仰の土台となり、力となっているかという、かたちのうえではそうであっても実際どのような内容を理解しているかは心許ないのではないか。教会生活にある者が、その「足腰を鍛えよう」とするとき、「大切なこと、それは教員が、しっかりと教理を体得すること」であるが、著者は本書で、その根幹に、教理学的な知識や解説というよりも聖書そのものに対する信頼を土台として実際展開している。

著者は長年説教塾を主宰し、現在に及んでいる。そして、説教者の営みをしばしば「聖書(に聴くこと)から説教へ」という言葉で語られることがあるが、著者はあえて「聖書から聖書へ」ではないか、と主張している。

## 聖公会出版

——新刊案内——

### 聖公会の教会問答 信仰の手引き

著●岩城聡

聖公会の教理を学ぶ基本は、『祈祷書』の中で大切にされてきた「教会問答」。本書は聖公会の教理、アングリカニズム(聖公会神学)、聖書神学などの深い神学的洞察に裏付けされたその解説書。聖公会の教会・信徒待望の必携の書。



(四六判 本体定価1800円)

### 魂の同伴者

著●ケネス・リーチ  
訳●関澄子・関正勝

著者は英国で地域共同体の神学者として活躍。また、欧米ではトーマス・マートンやヘンリー・ナウエンと並ぶ現代における霊性神学の著述者として有名。本書では霊的指導の重要性とその具体的なあり方について歴史的考察を踏まえ論じている。



(四六判 本体定価2300円)

『ハイデルベルク信仰問答』やルターの説教などの助けも借りておりますが、何と言っても聖書の言葉をたくさん引用しました。使徒信条の言葉、それを説く言葉はいずれも聖書を根拠とし、絶えずそこに立ち帰ります(五八一頁)。

「福音の真理を尋ねて聖書を読み、読み取った喜びの言葉を取り次ぐのは楽しい仕事です」と語る著者が、同様の喜びを味わえるように「読む方も楽しんでください」と呼びかけている。本書を通して「楽しく」三要文の言葉にふれることができるようになったことを改めて喜びたい。

(ふるや・はるお) 日本基督教団福岡中部教会教師  
(四六判・五八四頁・定価三三六〇円(税込)・教文館)

〒162-0814 東京都新宿区新小川町9-1  
☎03(3235)5681 FAX 03(3235)5682  
http://seikokai-publishing.jimdo.com  
nsk-bookshop@company.email.ne.jp

ドイツ教会闘争の歴史を詳述した貴重な研究  
 雨宮栄一著

## ドイツ教会闘争の史的背景



河島幸夫

植村正久、高倉徳太郎、賀川豊彦、井上良雄ら日本の神学者の評伝で有名な著者は、戦後日本におけるドイツ教会闘争研究の開拓者でもあり、その三部作『バルメン宣言研究』『ドイツ教会闘争の展開』『ドイツ教会闘争の挫折』（日本キリスト教団出版局）等の著作でこの分野の研究を先導してきた。

ドイツ教会闘争の歴史については著者の訳書、クービツシュ『ドイツ教会闘争への道』（新教出版社、一九六七年）、前記の『バルメン宣言研究』（一九七五年）第一章や拙著『戦争・ナチズム・教会』（新教出版社、一九九三年）第一―三章も解説しているが、今回の新著では、近年海外で出された資料集や研究書も利用して、くわしい論述が展開されている。

本書はまず、ドイツのプロテスタント教会の組織を特徴づける「領邦教会制」について詳述する。宗教改革以来、領邦君主を首長としたこの教会体制は一九一八年、第一次世界大戦の敗北で危機に直面したが、ヴァイマル共和制の下でも伝統的な諸権利を保障されることになった。守護者であった領邦君主を失ったかわりに民族と結合する「民族教会」が合言葉となる。し

かし民族教会を自賛する教会指導者O・デイペリウス『教会の世紀』（邦訳なし）が内包する問題点や、民族を神の「創造の秩序」とみなすアルトハウス、ヒルシュラルター派神学者の自然神学はカール・バルトによって鋭く批判された。一九三三年のヒトラー政権成立を歴史における神の啓示とみなし、反ユダヤ主義の冊子『ユダヤ人問題』（邦訳なし）を出した聖書学者G・キッテルとバルトの公開書簡による論争は興味深い。

アルトハウス、ヒルシュ、キッテル、ゴーガルテンらを巻き込んだナチス系のドイツのキリスト者信仰運動の複雑な様相についても、本書は詳述している。アーリア条項（ユダヤ人排除）を教会に適用しようとするドイツ的キリスト者による古プロイセン合同教会（多数のルター派と少数の改革派との合同教会）の乗っ取り、ドイツ全土への浸透を「信仰告白の非常事態」とみなして各地に誕生した告白共同体は、合同教会のプロイセン（デイペリウス総教区長）、ルター派のバイエルン（マイザー監督）、ヴェルテンベルク（ヴルム監督）、ハノーファー（マラーレンス監督）など全領邦教会の代表を集めて一九三四

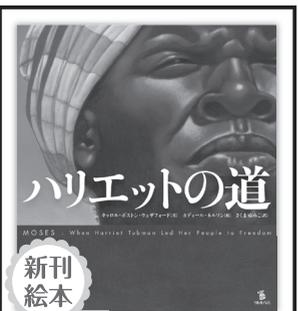
年五月に全国的な告白教会総会を開催し、バルトの主導でバルメン宣言を全会一致で採択した。それはイエス・キリストのみを神の言葉の啓示としてナチズムの全体性要求を批判していた。そこに至る道程の解説で本書ははじめてくられている。

これまで日本ではバルトやボンヘッファーについては多くの書物が出版されてきたが、ドイツ教会闘争の全体像の研究書は雨宮氏の前記著作と宮田光雄『十字架とハーケンクロイツ』（新教出版社、二〇〇〇年）、前記の拙著と『ナチスと教会』（創文社、二〇〇六年）などに限られる。そうした中で教会闘争の歴史を詳述した本書は、日本の先行研究のすべてを踏まえているわけではないが、貴重な貢献といえよう。

それだけに見られる誤記や誤訳は惜しまれる。二三頁の引用文三行目に「その日は私の心に《不吉な日》として刻みこまれた」が欠落。五八頁のマイザーはマラーレンス、六五頁二、三行目の述語文は「そんなことをすれば教会は自滅するだ

けだ」という理由で、それに全く反対した」が正しい。六六頁四行目の「不寛容な寛容性」は「不寛容な全体主義」。七七頁最後の引用文はドライアンダー（ドリヤンダー）でなく、福音主義同盟幹部会の布告である。七九頁等のトーマス・マンにおける文化と文明の対立説明は全く逆（正しくはドイツ的精神文化対英米の物質文明）。二八七頁一行目の「不適格性と無価値」は「無能者と劣等者」、三三四頁五行目の「時代の風潮」は「赤い洪水」が正しい。一〇九、一一八頁のラウシュニング『ヒトラー語録』は偽書であることが一九七五年に判明したので、利用すべきでなかった。三五八頁にドイツの教会は戦争に「かろうじて反対した」と総括されているが、拙著に詳述したように、戦争に反対したわけではなく、ナチスの教会政策、暴力支配、全体性要求に反対したのである。再版での総点検を期待したい。

（かわしま・さちお 西南学院大学名誉教授・政道学  
 （四六判）二六二頁・定価二五〇〇円（税込） 日本キリスト教団出版局



## ハリエットの道

キヤロル・ボストン・ウエザフオード文  
 カデイル・ネルソン 絵 さくまゆみこ 訳



19世紀アメリカにおいて、自らの手で自由をつかみ取り、多くの黒人奴隷を救い出したハリエット・タブマン。神の助けを信じ、力強く生きた黒人女性の物語を描く。

◆298mm×273mm・48頁・本体1800円＋税

### 姜尚中氏 推薦!!

（聖学院大学全学教授）

彼女の苦難に満ちながらも、神の愛に包まれた物語は、現代の出エジプト記として、今も隷従と貧困に打ちひしがれた数多くの人々に読み継がれていくに違いない。

日本キリスト教団出版局  
 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18  
 ☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457  
 E-mail eigyou@bp.ucci.or.jp (価格税別)  
<http://bp-ucci.jp>

恥辱と沈黙の半世紀、オランダの「慰安婦」被害の真実

マルゲリート・ハーマー著

村岡崇光訳

## 折られた花

日本軍「慰安婦」とされた  
オランダ人女性たちの声



池田恵理子

太平洋戦争中、オランダの植民地・インドネシアで日本軍「慰安婦」にされたオランダ女性は数百人にのぼるとされるが、名乗り出ている人は二名しか知らなかった。その意味で、「慰安婦」被害者を支援する「オランダ事業実施委員会」(PICN、「女性のためのアジア平和国民基金」)の事業を実施するための財団)代表で極秘相談役を兼務した筆者による八人の女性の体験記録は貴重である。

「私は彼女たちが長年背負われてきた不安、ショック、身体的・精神的負担などの困難を知り、そして彼女たちが往々にしてまだそれから解放されていないことを知った。彼女たちはその後の人生で「疵物」としての烙印を背負われてきた。自分がひどく汚らわしい人間であるように思ってきた」。

あまりに残酷な性暴力を受けた女性たちには恥辱感が強く、なかなか公に訴え出られない。これはどの国の被害者にも共通している。本書でも一人を除いては全て匿名だ。またこの間に発掘された日本軍や戦犯裁判の資料、聞き取り調査などによって、「慰安婦」制度の実態と犯罪性は国際的な常識になってき

たが、日本の政治家や政府が繰り返しこの事実を否定して被害者を深く傷つけてきたことも、アジア各国と共通している。

一方、オランダ女性に固有の特徴もある。中央ジャワのスマラン周辺の抑留所から慰安所に連行された女性たちのケースでは、戦後のバタビア臨時軍法会議で日本軍将校たちが裁かれて有罪になった。しかし被害女性の中には、周囲や家族から「自らすすんで日本軍の売春婦になった」という誤解や中傷を受け、深く傷ついた人がいる。日本軍は彼女たちを連行した時、自由意思で売春を志願したという日本語の文書に強制的に署名させ、慰安所の閉鎖で抑留所へ戻した時には、本職の売春婦と同じ一面に集めるという策略をめぐらしたからでもあった。

また、オランダ人とインドネシア人との間に生まれた「インドウ」と呼ばれる女性たちの多くは民間抑留所に収容されなかったが、町中で日本兵に拉致されて輪かんされたり、慰安所に入れられたりした。インドウの悲劇は、本書で初めて知った。

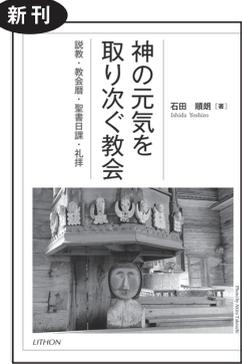
彼女たちは戦後、インドネシア独立闘争が始まると今度はインドネシア人に脅かされ、オランダへ引き揚げた。中にはオラン

ダの学校で「黒んぼ」と罵られて、アメリカに移住した人もいる。インドウのひとり、バタビアに住んでいたリアは母とチデンの抑留所に入れられ、慰安所で妊娠した。一回目は中絶し二回目はお産するが、生まれた子は目の前で日本兵に殺された。リアはその後、ひとりの将校の専属「慰安婦」にされて、二人の子を産む。ところがその将校は敗戦後、日本に引き揚げる前に面会に現れ、息子たちを連れ去ってしまう。リアは幸せな結婚をしてオランダで暮らしていたが、どうしても子どもたちに会いたかった。著者は依頼を受けてあらゆる手を尽くす。オランダを訪問した美智子妃にまで協力を頼むが見つめることができなかった。リアは二〇〇七年に亡くなったという。

オランダで公然と名乗り出たジャン・ラフ・オハーンさんとエレン・コリー・ヴァン・デル・プロフさんは日本政府の公式謝罪と賠償を求めて「アジア女性基金」の受け取りは拒否したが、本書には被害者からの訴えを無視し続ける日本政府への怒

りと悲しみがにじみ出ている。著者のマルゲリート・ハーマーは、一九四一年にインドネシアのスラバヤに生まれ、父親は日本軍の捕虜となり、自身は母親と共に抑留所に入れられた経験を持つ。彼女は被害女性たちに寄り添い、カウンセラー役を担ってきた。アジア諸国の被害者は日本政府への提訴や要請行動を通して、被害者同士や支援者たちと交流し励ましを得、尊厳の回復やPTSDを乗り越えようとしてきたが、オランダではこのような動きをあまり聞かない。だから「被害女性たちの人生を風化させてはならない」として「極秘相談役」を自認する筆者の役割は大きく、被害女性も半世紀も封印してきた体験を初めて語れるようになったのだろう。本書は、オハーンさんの自伝『ジャンの物語』(木犀社)とともに、オランダ人「慰安婦」を理解する上で必読の書になると思う。

(いけだ・えりこ)アクティブ・ミュージアム 女たちの戦争と平和資料館  
(四六判・二二六頁・定価一九九五円(税込)・新教出版社)



## 神の元気を 取り次ぐ教会

説教・教会暦・聖書日課・礼拝

石田 順朗 著

●四六判並製 ●定価1,260円

戦後再開した鷺宮・日本ルーテル神学校卒業の還暦を迎えた折に、この間「神の元気を分かち合ってきた兄弟姉妹がたを覚えて、宣教、説教、牧会、礼拝学の分野で習得した資料と体験をまとめることを決意した。(「あとがき」より)牧会者と会衆が共に、「説教・教会暦・聖書日課・礼拝」を学び、神の元気をいただくための入門書。

LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区三崎町2-9-5-402  
FAX 03-3238-7638



遙かなる自分への道  
高橋洋代著

## 『星の王子さま』からの クリスマス・メッセージ



斎藤惇夫

『星の王子さま』が岩波少年文庫の一冊として翻訳出版されたのが一九五三年のことである。それから六十年、この本は様々な神話を作りながら、おそらく億を超える人々の手に渡った。筆者もその一人であり、中学一年生の時に読んだ。実は、面白いはずと思いつきながら読み終えた記憶が鮮明なのである。それまで夢中になって読んできた物語にくらべて、ストーリーの展開は希薄で、しかも、「かんじんなことは目には見えないんだよ」なんて言葉にどうしても馴染めなかったのである。それを目に見えるようにするのが物語じゃないかと、本棚の隅に追いやったのである。それから六十年間、『星の王子さま』が好きです、などと言う人が現れると、私はまたか、とうんざりしながらその人の前から姿を晦まして生きてきてしまった。ところが、私の隠れている場所を眩く照らし、しかも、「なんじ腰ひきからげて丈夫の如くせよ」と大風の中から呼びかけているような本に出会ってしまった。それが本書である。

六〇年安保闘争の折、国会前のデモでくたびれて大学に戻った二十歳の娘に、友人が一冊の物語を渡した。政治に憤り疲れ

はて、垣間見たおとなの世界で戦っていた娘の胸中を、突如清風が過ったのか、砂漠に井戸を掘りあてたのか、それはわからない。しかしそれから半世紀以上、娘はその物語に魅入られ繰り返し読み続けることになる。その度に新たな発見をし、物語の更なる深みに触れていくことになる。座右の書では言い足りず、その物語を読み続けること自体がライフワークになっていく。その物語が『星の王子さま』なのであり、その『星の王子さま』のまわりを、次第に輪を広げながら誠実に飛び続けた魂の、稀有な記録が、本書なのである。

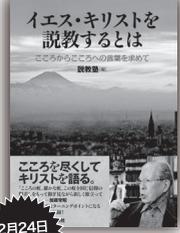
この物語が直接信仰を語っているわけではない。神も、祈りも記されてはいない。しかし、二十歳の娘の魂は、この物語が、どうやら自分の信仰と深い関わりがあるのではないかと直感する。アレゴリーを好まないし、まだ理解もできない少年とは違い、娘はそれまで親しんできた聖書の言葉をなぞり、バオバブを、バラの花を、羊を、そして王子さまを聖書に投影させて読み始める。やがてその読み方は、作者が献辞を捧げた相手を識ることにより、パスカルの『パンセ』と物語の親さを発見する

ことに繋がっていく。おびただしい『星の王子さま』研究も読まれることになるだろうし、作者の他の物語も繰り返し読まれることになるだろう。著作権が切れたとたんに、うんざりするほど出版された新訳にも目を通すことになるだろう。作者の跡を追っての旅も試みられることになるだろうし、この物語を読むために、フランス語も磨きをかけられることになるだろう。何よりも、母親になった娘は、我が子を通して、また専門の発達心理学を究めていきながら、とりわけ多くの子どもたちと接触することにより、王子の心の深みに沿えるところまで歩きつく。そして、「それは無限の広がり」と深さをもって存在している子どもの中の宇宙」の発見にまっすぐに繋がっていく。それも、あくまで学者としての慎重深い節度ある文体でこの物語に肉薄していき、その結果、『星の王子さま』を読み続けることが、信仰と子どもの中の宇宙に遥かなる自分、への道を探る旅になっていったということなのである。

一人の読者として我儘なことを言わせてもらえれば、こんどはあらゆる引用や傍証なしに、二十歳の時に心とらえられた『星の王子さま』に、ご自分の言葉のみで向き合っていたきたい。意識の先に、ペンがまず物語つてしまふ散文の世界の豊穣さを、言葉では分析できないそれ自身が定義としての「もの」である物語を、二十歳の娘は感じたはずなのである。そう、『星の王子さま』を、星の王女が読んだその驚愕を、生で、伝えてほしいのである。本書の読後、慌てて本箱の隅から『星の王子さま』を探し出し、読み返ししながら、それが、この物語を苦手にした少年へのクリスマス・メッセージになるのではないかとしきりにそんなことを思った。

(さいとう・あつお) 児童文学作家・編集者  
(四六判・一七六頁・定価一〇五〇円〔税込〕・教文館)

キリスト新聞社の本  
Kirisuto Shimbun, Co., Ltd.



2月24日発売!

## ▼「ハル」を尽くしてキリストを語る。——加藤常昭 イエス・キリストを説教するとは

「ハル」から「ハル」への言葉を求めて 説教塾●編  
二〇一三年十月に開催された説教塾二五周年記念シンポジウムの講演を収録。説教塾にとってはターニングポイントとなる貴重なシンポジウム。特別ゲストとして招かれたオランダの神学者ヘリット・イミンク氏の説教を付す。  
A5判 276頁 3150円

## ▼いま、最も愛されている説教者 天の国の種

マタイによる福音書を歩いて  
バーバラ・フ라운・テイラー ●著  
平野克己、古本みさ ●訳  
現役説教者であり、いま最も愛されている聖公会の女性司祭の代表的説教を厳選！ おき語を語るかのように、聴き手をそのなかに引き込み、聴く人の心を燃やす説教！  
四六判 214頁 2310円

キリスト新聞社  
351-0114 埼玉興和光市本町 15-51  
和光プラザ 2階  
TEL: 048-424-2067 (価格に税込)  
E-Mail: support@kirishin.com  
URL: http://www.kirishin.com

コーヒーを飲みながらカルヴァンに親しもう  
D・K・マツキム著  
出村 彰訳

魂の養いと思索のために  
『キリスト教綱要』を読む



吉田 隆

「カルヴァンとビールのジョッキを傾けている自分を想像できるかい？ ルターとならできるんだがな」とある人が言ったそうです。二人の違いをうまく言い表したものです。確かに、「カルヴァンと一杯やりたい」という気にはなかなかならないかもしれませんが（もともとカルヴァンとならビールではなく、ワインでしょうが……）。

カルヴァンは、食卓でビールのジョッキを片手に弟子たちと談笑したルターのような人物ではありませんでした。『卓上語録』はカルヴァンとは無縁です。そもそもカルヴァンは若い時から食事よりも仕事を優先させるたちで、晩年にはその病弱な体ゆえに食事自体をほとんど取らなかったのですから。

そのようなカルヴァンと、何と「コーヒーを」という書物が出ました。D・K・マツキムによる『Coffee with Calvin: Daily Devotions（原題）』が、それです。とは言え、さすがに邦語の書名としてはしっくりこないということで『魂の養いと思索のために』となったようです。これは「まえがき」に次のように記されている著者自身の意を汲んでのことでしょう。

八四のトピックの選択も興味深く、こんな言葉をカルヴァンが記していたのかと思える言葉にもしばしば出くわします。キリスト教教理についての含蓄ある言葉もさることながら、大半はキリスト者の生活に関わる滋味豊かな文章の数々で、まさに忙しい現代人が一服のコーヒーと共にカルヴァンの言葉から聖書真理の洞察を得られるようにと配慮された書物です。

また、ここには、氏の恩師であられ、『カルヴァンの敬虔』というこの分野では先駆的な書物をものされた『綱要』の現代英訳者バットルズへのオマージュとも言える南長老教会の敬虔が豊かに表されています。

マツキム氏は、牧師として常に信徒の生活の現実と向き合いつつ、カルヴァン研究者として宗教改革の信仰を現代に適応させるべく意を用いてきた方ですが、何よりすぐれた編集者として第一線の研究者たちの成果をコンパクトに提示する手腕には定評があります。その意味で、本書は、小著ながら氏の賜物が

……わたしが願ってやまないのは、以下のようなカルヴァンからの抜粋と、それに加えたわたし自身の黙想とが、……わたしたちのキリスト教信仰そのものを力づけ、挑戦ともなり、そして魂の養いの助けとなることを願っております。程度の差は別としても、すでにカルヴァンを知っている方々にとつては、カルヴァンの思索がキリスト者として生きるための貴重な助けとなりますように。そうでない方々にとつては、カルヴァンと共に一杯のコーヒーを飲む機会が、この重要な神学者と対話するきっかけともなりますように……

本書は、宗教改革神学の金字塔とも言うべきカルヴァンの『キリスト教綱要』からの短い抜粋にマツキムの黙想を加えたもので、キリスト教信仰の基本・教会における生活・神の道に従う・キリスト教生活の助け・キリスト者として生きる・時が良くて時が悪くても・来たるべき世を待ち望みつつ、の八つの章の下に、見開き二頁を一單元とした八四のトピックを配した「カルヴァン一日一章」となっています。

如何なく発揮された書物と言えるでしょう。

訳者は言わずと知れた出村彰先生で、初心者向けカルヴァンの紹介本は『はじめてのカルヴァン』（教文館）に続いて二冊目です。しかし、本文中の『綱要』引用文をバットルズ訳からの重訳でなく、一五六〇年の仏語最終版から直接訳しておられるあたりが先生らしいところです。それにしても「瀾漫」とか「耳朶を打つ」とか「神の寛慈」などの訳語に接していると、カルヴァンとコーヒーというよりは、出村先生とお茶でもすすりながらカルヴァン談義でもしているかのような錯覚に陥るのは私だけでしょうか。

二〇一四年は、カルヴァン没後四五〇年。この年、再びこの改革者の言葉によって「魂の養いと思索」の日々を送ってみられてはいかがでしょうか。

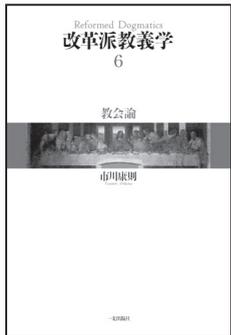
（よしだ・たかし）日本キリスト改革派仙台教会牧師  
（四六判・二二八頁・定価一五七五円（税込）・教文館）



教会論

（改革派教義学）第6巻

市川康則  
Yasunori Ichikawa



教会とはなにか

教会形成は神の国の伸展と、そのための宣教行為の中心的方法であり機会である。これをおろそかにして、キリスト教信仰に正しく生きることはできない。

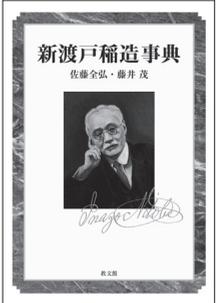
A5判・上製・函入  
定価 5,670 [本体 5,400 + 税] 円  
ISBN978-4-86325-051-2



株式会社 一麦出版社  
札幌市南区北ノ沢 3 丁目 4-18  
TEL (011) 578-5888  
http://www.ichibaku.co.jp  
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

現代に捧げる『新渡戸稲造事典』  
佐藤全弘、藤井茂著

## 新渡戸稲造事典



湊 晶子

新渡戸稲造が教育者、国際人、ジャーナリストとして残した業績は、和漢洋の広きにわたり、とても一人の研究範囲に収まるものではない程である。賀川豊彦は『巨大なる世界人——イナゾウ・ニトベ』と一口で説明するには困難を覚える」と述べた。

この度没後八〇年を記念して新渡戸研究の第一人者であり大阪市立大学名誉教授である佐藤全弘氏と財団法人新渡戸基金事務局長の藤井茂氏が『新渡戸稲造事典』を教文館から共同出版された。本書は、これまでの研究の集大成として、その生涯、交友関係、家系、著作、思想、揮毫、教育、学校など多角的視点から光を当てた画期的な事典である。一般に著作集がすでに出版されているのにそれに加えての事典が出版されることは珍しい。ここに新渡戸の広範囲の活動の特質が窺える。

本事典の特徴は次の五点に纏められよう。

一、「巨大なる世界人」と賀川が集約した新渡戸の行動、著作、関連出来事は、二七四頁にわたる詳細な年表に纏められている。新渡戸稲造の生涯の年表だけでなく、曾祖父新渡戸維

民の誕生（一七六九・明和六年）から稲造のカナダ・ビクトリア市ジュビリー病院での死（一九三三・昭和八年）までを二五〇頁に、さらに没後から二〇一三年までの新渡戸研究の歩みを二四頁に纏め添付した貴重な年表である。

二、家系図や揮毫など貴重な資料が二十数頁に纏められている。人に求められれば気さくに揮毫をする人柄であったため、日本全国に数多くの揮毫が残されている。アメリカの詩人ロングフェローの詩集 *Voice of the night* の中の詩 “A Psalm of life” の一節で、一九世紀アメリカで広く愛唱された詩 “Act in the living Present Heart within and God overhead” が、金色紙に揮毫され東京女子大学の学長室に掲げられている。学長時代に日々励まされた。

三、国内外にわたり交友のあった人物二九七名が日本人編と外国人編に分けて、一四八―二七六頁に亘って写真入りで紹介されている。国境を超えての政治、経済、文学、宗教界の人々との交流が「巨大なる世界人」を生み出したのであろう。新渡戸の生涯は妻メリー・パタスン・エルキントンなくしては不可

能であったと思うが、外国人編の中の一人として取り扱われているに過ぎない点が少々残念である。

四、関係のあった学校、土地、新聞、雑誌、著作について、他の事典類には見られない興味深いエピソードや関連事項、写真などが豊富に掲載されている。

五、先行研究資料として、『新渡戸稲造全集（全二三巻・別巻二）』、『新渡戸稲造研究（創刊号―一五号）』、『新渡戸稲造の世界（一六号―二二号）』の総目次がまとめられている点は膨大な作品の中から資料を効率良く探すのに大変便利である。

生涯を新渡戸研究に捧げて来られた佐藤全弘先生がこの事典のため書き下ろした「新渡戸稲造の生涯」は、先生が所有される膨大な資料から纏められたものであり読む者に深い感動を与える。「稲造理解はこれからである」と次のように閉じられる先生の文章は、今後の日本への問題提起であると思う。

「すぐる戦時中の軍閥と同様、稲造が『武士道』で最も強く

訴えたかったもの、キリストの心によって清められ高められた日本の魂を理解せず、稲造が生涯求め続けた平和を無視し、戦争を肯定するのに悪用する政治家、論者は今もあとを絶たない。また、そのような悪用を恐れて、自分も稲造の思想と信仰を十分理解せず、矢内原忠雄がその戦いの最も激しい最中に恩師の『武士道』を日本語に訳した意図を察することもなく、武士道即右翼と独断し、稲造その人の全体を否定する浅慮極まる人が、キリスト信徒の中にさえいることは、新渡戸稲造理解未だしの感を一層深める」。

（みなと・あき）＝東京女子大学前学長  
（A5判・七七四頁・定価五八八〇円（税込）・教文館）

今すぐ  
アクセス!

本のひろば ホームページ

<http://www.bunshyo.or.jp>

●2013年1月号から前月号まで、ホームページで閲覧できます。

「キリスト教文書センター」のホームページから書評誌『本のひろば』をクリックしてください!

一般財団法人  
キリスト教文書センター  
〒162-0814 東京都新宿区  
新小川町9-1  
TEL・FAX 03-3260-6520

世界の現実を前に、イエスの言葉が新たに響きだす  
松本敏之著

## マタイ福音書を読もう1 一步を踏み出す



鈴木伶子

「マタイ福音書を読もう」の第一巻である本書は一章から七章、イエスの誕生から山上の祝福、主の祈りを扱っています。あとがきによれば、著者の松本敏之牧師がブラジルで伝道しておられたころ、教会でのマタイ福音書の講解説教を一枚のプリントに縮めてブラジルの日系社会に配られ、人々に喜んで読まれていたとのことでした。

その面影を残すと思われるのが、本書の「短さとわかりやすさ」です。四十四の項目がそれぞれ五頁に読みやすくとめられ、キリスト教になじみのない人にもわかりやすく書かれています。短くてわかりやすい説教は、教会員にとって本当に嬉しいものです。

この本に一貫して流れているものは、苦しむ人、悲しむ人、悩む人に、イエス・キリストが寄り添い、その荷を共に負ってくださるというメッセージです。苦しみにあえぐ人々を世界的な視点でとらえ、それらの問題にもかかわらず、世界が神の作られた一つの大きな家であり、私たちは神の国の実現のために働くようにと、道を示し、励ましています。

笑顔を絶やさず、映画が大好きで映画紹介のコラムを担当していたこともある松本牧師は、人間性への理解や共感も深く、私たちがいかに微妙に神に背き、形式的・偽善的キリスト者になりやすいかということも見落としません。そのような私たちに、特に、悲しむ人、苦しむ人に温かく寄り添っていきます。そして、その苦しみの場には、すでにイエス・キリストがおられることへと気付かせていきます。

さらに、世界に、そして歴史に目を向けさせます。ブラジルやインドの飢えている人、黒人差別と闘ったキング牧師、ナチス・ドイツに対峙したボンヘッファー、軍隊慰安婦とされた人、政治的あるいは軍事的な権力者の下で苦しむ人、差別され抑圧されている人、六秒に一人の割合で餓死している子どもたち。この現実を見つめながらイエス・キリストが語られた言葉を聞くとき、わかったような気になっっている聖書のメッセージが、新たに生き生きと響いてきます。その時に、それらの問題は、よその国の問題、他の人の問題ではなく、私たちの問題であることが、明らかにされていきます。

私個人は、この本によって特に「祈り」について、深く教えられました。著者は、主の祈りの「御心が行われますように」という箇所を、こうなっってほしいという私たちの思いと、神様の思いが実現しますようにという祈りの間には、激しい葛藤があるとして述べています。実は私は、しばしば唱える主の祈りを、葛藤なしに唱えていることが多いのです。それは、御心が行われますように、という言葉にさえも、自分の思い、自分の居心地の良い世界を思い描いていることが多いからだと思いが付きました。現実の世界に苦しむ人が大勢いることを覚えながら、御心の実現を祈り、その実現のために真剣に生きようとするなら、御心の実現と自分の思いとの間には、激しい葛藤があるはずで、す。著者は、主イエスのゲツセマネでの祈りの場面に私たちを導き、祈りは激しい闘いだと告げます。

また、神が祈りを聞き給うことについても、祈りは決してつぶやきではないことを指摘し、日照りで雨乞いをしたとき、雲

ひとつ見えない晴天に雨傘を持って参加した少女の話を引きながら、私たちは本気で祈りが聞かれると信じているかと問いかけます。また、大宮薄牧師が、重い病に苦しむ幼いお嬢さんの命が助かるようにと、激しく祈られたにもかかわらず、その祈りは聞かれなかったが、必死で祈り続けた結果、神と結び付けられている自分に気付いたという証言も紹介されています。祈りが聞かれるということの深さに心を動かされ、神が御心を行われる方法は人知を超えていることに目を開かれました。

「イエス・キリストは、その言葉通りに生き、その言葉通りに死なれた」。そして、「聞いている者にも、ただ聞くだけでなく、その言葉を聞いたなら、その通りに生きてみよと迫られた」という言葉で本書は締めくくられています。

(すずき・れいこ) 日本基督教団代々木上原教会員、平和を実現するキリスト者ネット事務局代表

(四六判) 二三四頁・定価一八九〇円(税込) 日本キリスト教団出版局

並木浩一著作集2 全3巻

### 批評としての旧約学

第2回 記本

聖書を生み出した人々の生活と思想に向け「想像力」を馳せ、旧約テキストの本質と全体を掴む試み。

A5判・3550頁・40000円

シリーズ案内

1 ヨブ記の全体像 好評発売中 4,000円

3 旧約聖書の水脈 2014年6月刊行予定

連続講演会のご案内

3回にわたり、著者自身が全3巻を解説

第2回「批評としての旧約学」

2014年3月15日(土)

\*詳細はHPをご覧ください

### 歌いつつ聖徒らと共に

キリスト者の死と教会の葬儀

トーマス・G・ロング 吉村和雄 訳

アメリカ有数の説教者アメリカ有数の説教者が、現代キリスト教葬儀について問う。それぞれ具体的に論述。

A5判・330頁・45000円

日本キリスト教団出版局

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18

☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457

E-mail eigyou@bp.ucci.or.jp(価格税別)

<http://bp-ucci.jp>

真の優しさ、隣人愛の実現の術を描く  
松居 友著

## わたしの絵本体験 昔話とこころの自立



菊地知子

この二冊はそれぞれ一九八六年と一九九四年に出版され、今回、教文館から出された。私自身を含む多くの人に望まれ待たれた復刊だったことと、まずはたいへんうれしく思う。

『わたしの絵本体験』（以下、『絵本体験』）と『昔話とこころの自立』（以下、『自立』）とは、それぞれに独立してはいるけれど、決して別個の本ではない。『絵本体験』は、幼い子どもが絵本や昔語りから受け取る「愛」について描かれており、『自立』はその後編と言うべき内容で、子どもが、愛をベースに、自立のための困難を克服していくための知恵や勇気について語られている。

『絵本体験』に、それを示す次のような箇所がある。「本来精神的な面で、大人が子どもにしてあげなくてはならないことは（中略）子どもに豊かな愛を注ぎ心を養い育てると同時に、人生を生き抜いてゆくための知恵と勇気を教えてあげることでしょう。……子どもたちに大人がしてあげなければならぬことは、どんな嵐に出遭っても消えることのない愛の灯を心にともしてあげることでしょう。そして、心をこめて絵本を読むとい

うことは、生涯消えることのない愛の灯を心にともしてあげることなのです。絵本は愛の体験です」（『絵本体験』七九頁）。

さて、これらの著作の白眉は、子ども（あるいは若者、年少者）へのまなざしに見られる、隣人としての優しさであると思う。二〇一一年の東日本大震災・原発事故以来、隣人愛以上に大切なものはないと、私はますます強く思うようになった。著者の言葉が、書かれてから時を経た今こそ私たち読み手の心にもみずみずしく届くのは、真の優しさ、隣人愛の実現の術が描かれているためではなからうか。

子どもが「愛」を根本に、人間として自立するためには、隣人である大人が自らの生をかけて乗り越え担わなければならない困難がある——著者の言葉を借りるならば「やっつけられる」ことが必要である、という。子どもが自ら生きる主体として自立するためには、自分ではどうにもならない、受容される、聴いてもらう、という、他者を主体とする行為が不可欠である。私は保育や子育てを専門領域とする者だが、常々、「あそぶ」「育つ」あるいは「自立を阻むものをやっつける」といった

ことの主体性と、それと裏腹の「聴いてもらう」「受け止めてもらう」あるいは「やっつけられてもらう」「利己的な思いを捨て去って無私の愛に立つてもらおう」という他者本位性とも呼ぶべき、育ちの本質について考える。「みずから」「おのずから」という字を用いて表すことからの、なんと人と人とのつながりに、「愛」に、依るものであることか。

その意味においても、著者が二作に共通のあとがきでいみじくも書いているように、「子どもが自立する過程で、相対的に大人も自立していかなければ」ならないのである。親にならうと老人にならうと成長を続ける、死ぬまで未熟な存在である人間にとっての何よりの試練と言えるかも知れない。

さて、子どもが昔話や絵本を語ってもらい、また、自らの自由な想像力が作り上げた遊びをすることが、子どもの心の成長や自立にとっても大切であるとも著者は説く。スポーツやゲームは、さまざまな形で大人の思いが介入し、大人によって

決められた複雑なルールに則って行動しなければならぬため、遊びとは別である、という指摘は、他の多くの具体的な指摘同様、著者の慧眼の為せる業と言えよう。ここでもまた、生きる主体としての子どもにとつての隣人としての優しさを発揮しているとも言えるように思う。

著者は、現在彼の暮らすフィリピン・ミンダナオの地でマノボ族酋長アオコイ・マオンガゴンの称号を与えられたそうだ。その名の意味するところは、「心から人を助ける我らの友」であるという。私たちは、復刊されたこれらの著作によっても、その名の表すところをしみじみと知る。私たちの元へ、これらの書が再び届いたことに、今、改めて感謝したい。

（きくち・ともこ＝お茶の水女子大学特任講師）  
（わたしの絵本体験Ⅱ四六判・二四四頁・定価一四七〇円〔税込〕・教文館）  
（昔話とこころの自立Ⅱ四六判・二二四頁・定価一四七〇円〔税込〕・教文館）



## キリスト教書総目録 2014年版 創刊25周年記念特集号

総記年鑑 辞(事)典 図説年表/全集(著作集) 叢書・講座/聖書/神学/宗教学 思想倫理/伝記(ライオン) 信仰入門書 人生論 説教集/文学小説 評論/チャイ 詩 劇 音楽 美術 建築 教育保育 心理 社会福祉/児童 絵本/讃美歌 式文/DVD CD カセット ビデオ/キリスト教関連雑誌 新聞 書名索引/著者索引/掲載出版社名簿

■ A5判 一般頒価1冊300円 送料240円  
■ お近くの書店様でお求めください。

キリスト教書総目録刊行会  
事務局 〒162-8710 東京都新宿区  
東五軒町6-24 トーハンビル内  
TEL.03-3266-9521

世の中を変える力の源に迫る  
岡山慶子編著

## やさしさの暴走 社会を変え、人を幸せにする力



朝日研一朗

うちの教会の役員が、ある教会を評して「スキのない教会ですよね」と、何気なく、その印象を語っていました。勿論、褒め言葉として仰ったのです。そして、私たちは、自分たちの教会を振り返り、「スキだらけだよな」と苦笑したものです。反省しきりでした。しかし、それからまた、しばらく時を置いてみると、余り「スキだらけ」も困るけど、「スキのない教会」というのも問題だと気付いたのです。むしろ、教会というところはコミュニティ（共同体）ですから、少くもスキがあった方がよいのです。スキがなければ、クリスマスの物語のように、「見知らぬ旅人」の「いる余地」「泊まる場所」がなくなってしまうでしょう。……という訳で、本書もまた「スキだらけの本」です。

「やさしさの暴走」……。そもそもタイトルからして、こちらから違和感や反発が吹き出しそうです。この言葉は、巻頭に登場する村木厚子（厚労省事務次官）のエピソードから抽出されたものです。彼女が検察から「郵便不正事件」の濡れ衣を着せられた時、大勢の仲間たちが自らの立場や世間体など

一顧だにせず、支援活動に邁進する様子を見て、当時一八歳だった村木の娘さんが「やさしさを行動に移す」パワーが「暴走機関車」みたいと、印象を書きとめた言葉から来ているのです。しかし、「やさしさ」という曖昧模稜とした語だけでも心配になって来るのに、その「暴走」が始まるのですから困ってしまいます。黒澤×コンチャロフスキーか、はたまた『アンストツパブル』です。近年、原発の「核暴走」を経験したばかりでもあります。正直、戸惑うばかりです。

このテーマに沿って、その後、六名の人たちへのインタビューが始まりますが、これまた一筋縄では行かない人たちがばかりで、お題を好き勝手に再解釈して、思わぬ方向に発展させていきます。藤井信吾（医師、婦人科がん学）は、自分の働きに当てはめて「おせっかい」「愛情による干渉」と言い換えます。丸田俊彦（精神科医）は、むしろ「やさしさ」の名の下に集団行動が起こる場合の危うさ、更に「おためごかし」を指摘します。北岡賢剛（障がい者福祉）は、自分が障がい児教育の勉強をしたのは、いい人（「やさしい人」）になって、女の子にも

てたかったからと言って笑います。

木下晋（画家）は、人間が自然に接する暮らしから離れて「暴走」を加速していることを警告します。末安民生（精神科看護）は、「好き嫌い」（人格との出会いみたいなもの）や「遊び」をキーワードとして提出します。香川敬（幼児教育）は仏教者らしく、「親子の宿縁」とおくの宿縁、「家業」としての覚悟などを説きます。

見事なまでに、その受け止め方がバラバラなのです。そして、このバラバラさの塩梅こそが、この本のミソなのです。驚くほどに多分野の人たちと交流のある著者が「この人の持つ力、世の中を変えていくほどの力は何だろう」と、特に注目した七人なのです。だから、テーマになっているのは「パワー」なのです。その「パワー」の源はどこから来ているのだろうかと探っているのです。「やさしさの暴走」という語は、その一つの解釈に過ぎません。そもそも、これはリセプター（受容体）の出来

ていない語なのです。因みに、私は、この書名を英訳したら、

*Love Rushes* か *Love-Rush* かと思いましたが、それだと「女の子をナンパする」の意味になるかも知れません。

ここに出て来る人たちなら、たとえ「愛」というキリスト教用語を使っても、納得はしないでしょうし、そのまま自明のものとして受け取りはしないでしよう。きっと、それぞれが自分の働きと課題の中から、自分の物語として、新たに自分の言葉を紡ぎ直していくことでしょう。昔、唐十郎が芝居の中で、役者に「愛しています！」と言わせる代わりに、「お世話させてください！」と叫ばせていたように。

（あさひ・けんいちろう）日本基督教団行人坂教会（牧師）  
（四六判・一九二頁・定価一三六五円（税込）・教文館）

キリスト新聞社の本  
Kirisuto Shimbun, Co., Ltd.



## 聖書入門

贈り物として「最適」

好評発売中

アンゼラム・グリューン 著  
中道基夫、萩原佳奈子 訳  
本の中の本当の聖書を読むためのガイドブック。聖書の言葉が、現代を生きるわたしたちにとって身近になる！本書は、現代のわたしたちに聖書を読むための指針を与えてくれる。  
四六判・214頁・1100円

## 初めて教会に来た人には、こう見える！ もつと教会を 行きやすくする本

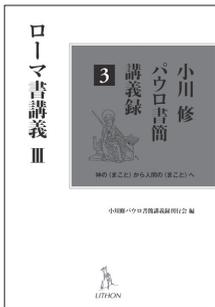
「新来者」から日本のキリスト教界へ  
八木谷涼子 著  
はじめて教会に行った新来者が教会からどんな印象を受けたか、教会のどんな対応を好ましく思い、あるいはそう思わなかったかをイラスト満載で解説！牧師や教会役員におすすめの冊！  
四六判・98頁・1175円

キリスト新聞社  
351-0114 埼玉興和光市本町 15-51  
和光プラザ 2 階  
TEL. 048-424-2067 (価格税込)  
E-Mail. support@kirishin.com  
URL. http://www.kirishin.com

講義録ならではの醍醐味を存分に味わう  
小川修パウロ書簡講義録刊行会編

## 小川修パウロ書簡講義録3

ローマ書講義Ⅲ



菅原 力

『本のひろば』(二〇一一年十二月号)で石川立氏は小川修氏の「ローマ書講義Ⅰ」について、「(聖書学)と(神学)が概してそれぞれの成果に無関心で」あり、「ほとんど無関係となつて」「(聖書神学)という用語は死語になりつつある」中で、「正面から堂々と(聖書神学)を講じる書が現れた。」と紹介された。(神学)とは何かという議論が今日いろいろある中で、聖書が語る救済、啓示の事実を宣べ伝える使命を託されている教会において(聖書神学)がなくてはならぬものであり、生命線であることもまたまちがいない事実である。

小川修『ローマ書講義Ⅲ』(小川修パウロ書簡講義録3)がⅠ、Ⅱに続き出版された。「講義Ⅲ」ではローマ書の8章から15章までの講義が記録されており(16章は割愛)、これでわたしたちは小川修氏によるローマ書講義の全体を手にしたことになる。そしてわたしたちは、この本によって日本語によって編まれたすぐれた聖書神学の成果としての「ローマ書講義」を手にしたことになる。

著者がこの「講義Ⅰ」の中で繰り返し語る福音とはローマ書1章17節の「エック ピステオース エイス ピスティン」にあ

らわされているものである。これは「神の(まこと)から人間の(まこと)へ」ということであり、神の(まこと)とは、キリスト・イエスの中に人間はある、という神の与えた現実のことである。われわれが今ここに、(からだ)において生きているのは、わたしを愛し、わたしのためにご自身を捨てた神の子のピステイスの中にあるからだ。この神の(まこと)という第1ピステイスこそが人間の(まこと)である人間の信仰(第2ピステイス)を呼び求めてくるのであってその逆ではない。人間の神に対する熱心が信仰を生み出すのではない。神の(まこと)(第1ピステイス)に気づかされた者がその応答としての第2ピステイスで応えていく。この神の(まこと)の中にある人間という現実こそが、根本的な義認であり、これを受容する(第2ピステイス)人間に神の義が表れる、と著者は語る。「ローマ書講義Ⅲ」においても、著者はこの福音の中に立って、ローマ書後半の講義に入っていく。神の選び、予定論、倫理、国家に関して。読者は神の(まこと)の中にある人間という現実から、ローマ書後半のさまざまな事柄と向き合っていくことになる。

この本の大きな特徴は書名にあるとおり「講義録」であるという点である。しかもこの講義録は、限りなくその場の「語り」に忠実な「講義録」なのである。その「語り」の復元は徹底しており、「あの」「その」の類発はもちろん、ちよつとした言い間違えやくりかえしまでそのまま再現している。なぜここまで、と感じるほどだが、読み進むうちにその意図は次第にはつきりしてくる。同志社大学神学部の大学院で行われたというこの講義は、配付した資料、講義箇所、要旨、ギリシア語本文、私訳、質疑応答、そのすべてが記載されている。まさに講義の全容が再現されているのである。読者はこの本一冊で直ちに教室の最前列に着席し、ローマ書という大きな森に入り込み、一本一本の木をていねいに見つめながら、尚、森全体の中心にある福音から一歩たりとも離れることなく読み解いていく小川氏の講義に連なるのである。この講義は小川氏自身が生きている福音が繰り返し語られる講義であり、その繰り返しの中で人間

のまこと(信仰)とは、人が神のまことを自分の存在の根拠と由来として受けとることに他ならない、ということが著者を通して豊かに語られる講義なのである。講義録において講義者が一体どんなことに自分の存在を向けているのか、それはその語り口の中に如実に表れてくるのではないか。読者はこの講義に列して講義録ならではの醍醐味を存分に味わうことができる。「講義録」を編んで下さった刊行会のメンバーの御労苦に心から感謝すると共に、今、日本の教会にもっとも必要な聖書神学の成果がこのような形で出版されたことを喜びたい。尚引き続き刊行されるといふパウロ書簡(コリント、ガラテヤ)の講義録の出版も期待して待ちたい。

(すがはら・つとむ) 日本基督教団弓町本郷教会牧師  
(A5判・四〇六頁・定価三二五〇円〔税込〕・リットン)

# 小川修パウロ書簡講義録3

## ローマ書講義Ⅲ

小川修パウロ書簡講義録刊行会編

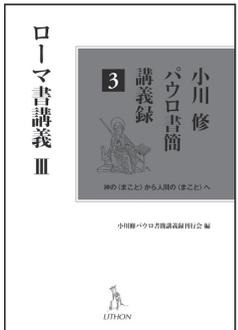
●A5判上製 四〇六頁 ●定価三二五〇円

小川修先生が長年追求め掴まれた福音理解は、同志社大学神学部大学院での三年間(二〇〇七―一〇年)に亘るパウロ書簡講義に結実したと言っても過言ではない。ひとこと言えば、「神の(まこと)から人間の(まこと)へ」といふパウロの福音理解であった。

LITHON [リットン]

〒101-0061 千代田区三崎町2-9-5-402  
FAX 03-3238-7638

新刊



■新教出版社

ハイデルベルク信仰問答入門 (仮題)

楠本博行著

昨年450年の記念の年を迎えたハイデルベルク信仰問答。時を超え教派を越えて読み継がれているこの信仰問答の秘密を、平易な言葉で解き明かす。ハイデルを学ぶための座右の書。大森講座第28巻。

四六判・108頁・予価1000円

愛と正義——ポール・リクール聖書論集2

ポール・リクール著／久米博ほか訳

宗教の哲学的解釈学——カント／問題の《黄金律》／聖書の言説における声と書の絡み合い／「理解を求める信仰」／ひとつの聖書からもうひとつの聖書へ／愛と正義／翻訳という範型、の7編。

四六判・230頁・予価2500円

■教文館

学問論と神学

W・バネンベルグ著／濱崎雅孝、清水正ほか訳

現代の学問論をめぐる状況の中で、神学はいかなる立場を取りうるのか？本書では、現代の学問理論との対論を通じて、神学の固有の学問的立場を弁証する。

A5判・512頁・6000円＋税

東方キリスト教の歴史

アズィズ・S・アティーヤ著／村山盛忠訳

コプト教会、エチオピア教会、シリア教会、ネストリオス教会、アルメニア教会、南インドのトマス教会など、カルケドン信条を拒否した東方諸教会の歩みをたどる。

A5判・698頁・8000円＋税

INFORMATION

近刊情報

■キリスト新聞社

イエス・キリストを説教するとは——ここから説教塾編

2012年11月に開催された説教塾25周年記念シンポジウムの講演を収録。特別ゲストとして招かれたオランダの神学者ヘリット・イミンク氏や説教塾主宰である加藤常昭氏の説教を付す。A5判・276頁・3000円＋税

天の国の種——マタイによる福音書を歩いて

バーバラ・ブラウン・テイラー著／平野克己、古本みさ訳  
現役説教者であり、いま最も愛されている聖公会の女性司祭の代表的な説教を厳選。  
四六判・214頁・2200円＋税

キリスト教年鑑2014

キリスト教年鑑編集委員会編  
わが国唯一のキリスト教総合年鑑。冊子本体に教会情報を掲載、購入者は「キリスト教年鑑WEBサービス」を無料にて利用可。  
B5判・1200頁・14000円＋税

■日本キリスト教団出版局

洋楽渡来考 再論——箏とキリシタンとの出会い 皆川達夫著

DVD付  
箏曲「六段」がグレゴリオ聖歌「クレド」の旋律を元に作られた」という仮説に挑戦し、曲の構造や様々な状況証拠を検討する。ローマで「クレド」

「六段」を同時演奏したDVDも収録。A5判・160頁・6400円＋税

ナザレの人のイエス

ドロテー・ゼレ、ルイーゼ・シヨットロフ著／丹治めぐみ訳  
二人の女性神学者が現代的視点からイエスを語り直す。聖書学的知識に裏付けられながらも平易な文章、詩や絵画は、読者をイエスの黙想へと誘う。用語集、年表、解題を収める。  
四六判・210頁・2200円＋税

書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jp-shop.com	sasaki@jp-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用	http://www7.ocn.ne.jp/~zen-book/	zenrinkan_syoten@yahoo.co.jp	02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台青葉区1-136 敷島センター17号F	022-223-2736	共用		fcqwks524@ybb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	平新町短箱22 千葉カシヤセンタービル	043-238-1224	043-247-3072		keisen@vesta.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
聖公書店	162-0814	東京都新宿区新小川町9-1	03-3235-5681	03-3235-5682	http://seikokai-publishing.jimbo.com	seik-bookshop@company.email.ne.jp	00140-8-50880
アバコ・ブックセンター	169-0051	東京都新宿区西早稲田2-3-18	03-3203-4121	03-3203-4186	http://www.avaco.info	avaco@avaco.info	00130-0-96398
待農堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	03-3333-6378	http://members3.jcom.home.ne.jp/taishindo/	taishindo@jcom.home.ne.jp	00110-8-95827
キリスト教書店ハンナ	162-0814	東京都新宿区新小川町9-1	03-3269-4490	03-3269-4491		kirisu@youstotenhanna@ybb.ne.jp	00150-9-595509
バイブルハウス青山	107-0062	東京都港区南青山5-10-2	03-6418-5230	03-6418-5231		biblehouse@bible.or.jp	
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www.biglobe.jp/~yoharacbs/index.html	sksch@mva.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用			00680-8-47
静岡聖文舎	420-0812	静岡市葵区古庄3-18-12	054-264-0264	054-264-4416		info@s-seibun.co.jp	0810-8-26558
名古屋聖文舎	464-0850	名古屋千種区今池5-28-4	052-741-2416	052-733-2648	http://homepage3.nifty.com/seibunsta/	nagoya-seibunsha@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東入ル	075-211-6675	075-211-2834		kjordan@inbox.kyoto-net.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0002	大阪市北区菅根崎新地2-1-15	06-6345-2928	06-6345-2187	http://www11.ocn.ne.jp/~osakacbs	ochtbok@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
堺キリスト教書店	591-8044	堺市北区中長尾町2-1-18	072-257-0909	072-253-6132		sakai-x@topaz.plala.or.jp	00960-9-47426
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18三陽ビル2F	078-331-7569	078-331-9833			01150-7-45120
広島聖文舎	730-0016	広島市中央区鞆町7-28	082-228-4914	082-223-0951			01360-4-1958
徳島キリスト教書店	770-0052	徳島市中島田町3-57-1	088-633-6335	共用	http://www6.ocn.ne.jp/~tcs/	tokushoten@shrit.ocn.ne.jp	01630-5-37119
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一町1-23	089-921-5519	089-921-5413		sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
北州キリスト教ブックセンター	802-0022	北九州小倉北区上富野5-2-18	093-967-0321	共用	http://kcbook.net/	kcbookcenter@ybb.ne.jp	01780-4-39965
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7	092-712-6123	092-781-5484			01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用			017304-45044
沖縄キリスト教書店	901-2134	浦添市港川2-25-1	098-877-7283	共用	http://www.okinawacbs.com/	okinawacbs@yahoo.co.jp	020308-1283
エマオ・BOOKセンター	904-0004	沖縄市中央3-14-2	098-929-3776	共用	http://www.okinawacbs.com/	emacbs@yahoo.co.jp	

新教出版社

# 福音と世界

2014年3月号

## 特集 一神教 vs 多神教？

寄稿／小原克博、勝又悦子、四戸潤弥、  
山本芳久、黒住真、中道豪一、石田学

追悼 秋山憲兄…………… 武田清子

## 好評連載

みことば断想…………… 岩田雅一

韓国教会通信…………… 洛雲海

ミスル…………… 大城実

新教70年の名著「教会教義学」…………… 宮田光雄

## 編集室から

世界最大の人道支援NGOである「赤十字」。イスラム圏ではこの赤十字に対し「赤新月」を使用するが、活動母体は一緒である。

昨年末、マレーシアに行ってきた。理由は、東アジアのイスラム教国を肌で感じたいと思ったから。同国では最近、上訴裁判所が、ムスリムではない人が神を表す言葉としての「アッラー」を使うことを禁じたというニュースがあったし、アジアで急速に経済成長を遂げるなかで、宗教がどのように市井の人々の中に息づいているのかに興味があった。中東や北アフリカのイスラム教国とも比べてみたかった。

首都クアラルンプールの繁華街は、街なかを歩く女性が頭髪や肌を覆い隠している以外は、東京の渋谷や原宿とあまり変わらない賑やかさという印象をもった。超高層ビルのペトロナスタウンタワーが近代化の象徴のように高くそびえている。

A5判・本体571円・〒68円(2014年3月まで)  
定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

# 旧約聖書入門 1

現代に語りかける原初の物語 大野恵正著



聖書をわかりやすく、かつ格調高く語ることに定評ある著者が、研究者、教師、そして牧師として旧約聖書の豊かなメッセージの核心を現代人に取り次ぐ。

◎小B判・270頁・1800円＋税

タイのシルク王として知られたジム・トンブソンが謎の失踪をとげた高原地「キヤメロンハイランド」へ向かうため、長距離バスに乗り込んでいたときのこと。山中で、交通事故による渋滞という状況に遭遇した。現場にいた救急車には、「赤新月」が描かれていた。十字の形はキリスト教を連想させることから、イスラム教国では三日月形のマークを用いる。モスクなどの宗教施設よりも、こうした身近なところで感じる異文化が好きだ。帰国後、赤十字運動は昨年、誕生から一五〇年を迎えたということを知った。同じ時期にはアメリカの南北戦争もあったので、それから約一五〇年である。また、今年には第一次世界大戦が始まってからちょうど一〇〇年目でもある。こうした区切りの時期に、あらためて、赤十字のように、敵味方の区別なく負傷者の救護・看護にあたるという理念の意味を考えてみたいと思った。

(竹下)

〒162-0814 東京都新宿区新小川町 9-1  
TEL: 03-3260-6148  
FAX: 03-3260-6198

「国のかたち」である、  
憲法とはなにか？



**改憲問題と  
キリスト教**  
稲垣久和 ● 本体1,300円

2013年末に特定秘密保護法が成立し、自民党は憲法改正に大きく動き出している。本書では、現行憲法に具現している「人類普遍の原理」を公共哲学とキリスト教神学から積極的に活かす「活憲」を提案。今後国民的議論が予想される課題に対して、民主主義を捉え直し、憲法の本来の役割を説く。



**斎藤惇夫**

おとなたち、そして自分は今、子どもに何を手渡すべきか。「ガンバの冒険シリーズ」の著者が、自身の魂の軌跡を辿り、これからの子どもの本への思いを語る。

**わたしはなぜ  
ファンタジーに向かうのか**

● 本体1,100円



**古橋昌尚編**

多様性に満ちたアジアに、キリスト教は根づくのか？ 生活世界の中から信仰を捉え、福音のインカルチュレーション（文化的受肉）の新たな可能性を模索する。

● 本体1,800円

**今日のアジアの教会における  
インカルチュレーション**



**関啓子**

キリスト者であり、脳卒中リハビリの専門家（言語聴覚士）として活躍する著者が、自ら体験した発症から職場復帰までを克明に記した貴重な記録。

**まさか、この私が**

● 本体1,400円



**清水光雄**

ウエスレーにおける東方的靈性の影響や彼の社会問題への実践的活動など、新しい研究成果を精力的に紹介し続けてきた著者が、恩師・野呂芳男との対話を通して、新しいウエスレー像を鮮やかに浮かび上がらせる。

**野呂芳男との対話**

● 本体2,500円

**ウエスレーをめぐる**



**教文館**

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1 TEL03-3561-5549  
本のご注文は(e-shop 教文館)へ! <http://shop-kyobunkwan.com/>

**e shop 教文館**

本のひびきは 第六七四号 二〇一四年三月号

発行所 東京都新宿区新小川町九一―一 一般財団法人キリスト教文書センター  
電話03-3333-6510 振替0011-070151 一六六七  
発行人 本村利春 編集人 中川 忠 印刷所(株)平河工業社  
発売所 日本キリスト教書販売株式会社 電話03-3333-6510 一六六七

定価七五円(税抜七二円)(〒60円)  
一年分一三〇〇円(送料共)

# 緊急出版! 特定秘密保護法に反対する牧師の会 編 なぜ「秘密法」に反対か



開かれた平和な国のために祈りつつ  
特定秘密保護法は、平和憲法改悪へ向かう一連の動きの中で国民の知る権利を侵す、きわめて危険な法律。本書は、これの廃止を求める「牧師の会」の呼びかけ人や賛同者から寄せられた、キリスト者としての課題を考える熱いメッセージを収録。  
◆A5判・本体1300円

著者・朗読  
山口清野 堀内 謙一 川上直哉  
杉浦 紀高 橋本 隆徳 石黒 一  
サウ 達彦 木村 裕司 黒 伊  
平良 隆香 内藤 新吾  
英賀 隆浩 増田 裕司 黒 伊  
上 辺 隆香 増田 裕司 黒 伊  
岡崎 文彦 黒 伊

# 原発社会に生きるキリスト者の責任



藤井 創著  
豊富な図版と簡潔な解説でチェルノブイリと福島の実相を正確に学び、私たちに求められている生き方の方向転換を考える。教会で共に学習し、話し合うために最適の書。  
◆A5判・本体1300円

# テサロニケ人テモテテトス・ゾレモンへの手紙

宮平 望著 私訳と解説 好評の注解シリーズ第9弾。  
◆A5判・本体2400円



# お父さんの手紙

つづい 文庫  
イレーネ・デイシー著 / 赤坂桃子訳  
ドイツ児童文学書受賞作 ナチ時代、外交官としてベルリンに駐在するお父さんから毎週届いた手紙が、ある日を境に……。暗い時代を勇気をもって精一杯生きた祖父・父・少年の愛情を描いた作品。  
◆小B6判・本体1000円



## 新教出版社創立70年記念 連続神学講演会のご案内

- ▶ 第1回 宮田光雄氏 「バルメン宣言の政治学」  
バルメン宣言80周年を覚えて  
4月26日(土) 午後2時~4時、会場: 信濃町教会
- ▶ 第2回 佐藤優氏 7月26日(土)、▶ 第3回 荒井猷氏 10月25日(土)  
入場は無料ですが、定員がございますので、お名前・連絡先と共に申し込みにください。  
申込先: eメール sales2@shinkyō-pb.com, FAX 03-3260-6198

